

令和6年1月10日区長記者会見

【司会】

それでは、皆さまこんにちは、定刻となりましたので、只今から令和6年1月10日北区長記者会見を開始いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私広報課長の窪田と申します。よろしくお願いいたします。本日は区長のお他、政策経営部長の藤野と、しごと連携担当課長の入江が出席しております。

それでは早速ですが、やまだ区長よろしくお願いいたします。

【やまだ区長】

1月の区長記者会見を開催したいと思います。

本日は新年のお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。会見に先立ちまして、まず初めに1月1日、能登半島地震で亡くなられた皆様のご冥福をお祈りいたしますとともに、また被災をされたすべての皆様にお見舞いを申し上げたいと思います。

そして、救援に当たられている皆様にですね、本当に深く敬意を表したいと思います。被災地の1日も早い復興を心からお祈りいたしたいと思います。あわせて区としても全力で支援をしていく考えであります。その内容につきましては、今日の記者会見の中で発表させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今日は大きく二点についてお話をさせていただきたいと思います。一つは先ほども申し上げました、能登半島地震を受けましての対応についてであります。

一つ目がですね、災害義援金の受付を区としても始めました。1月5日から12月27日まで区有施設24か所、現在、日赤とも協議をさせていただきまして、プラス3か所追加をしていく予定であります。現在、区の庁舎、北とぴあ、滝野川会館、赤羽会館。また、各地域の地域振興室に19か所、合計24か所で受け付けを開始させていただいております。

そして、この義援金につきまして、町会・自治会連合会、商店街連合会をはじめ、区内の関連団体の皆様にファックスやメールなどで区の方から、義援金のご協力をお願いを区として要請をお願いをさせていただきたいというふうに思っております。

私たち区の職員も含め、また議会でもそのような対応をさせていただいているとお話を伺っております。全庁挙げて、区内挙げて被災地への義援金対応を行っていききたいというふうに思っております。

そして、あわせて支援の内容として、もう一点、義援金以外に給水車を派遣していくための準備を進めております。

また、保健師など職員を派遣していく準備も進めております。あわせて物資。オムツですとか食料ですとか、水、そういったものの物資を運ぶための準備も進めておりますが、これら23区、特別区で協議をいたしまして、東京都や国と連携をしながら被災地自治体とのマッチング、協議を経て、区として単独ではなく、連携の中で派遣要請を受けて必要な場所に派遣をしていくというような考えで、準備を整えております。区としてできること、今、みんなで考えて支援策を考えておりますので、ぜひまた決まり次第その都度お伝えをしたいなと思います。

やはりこの震災を契機といたしまして、改めて区内の防災、災害対策を見直していくことが重要だと思

っています。この点につきまして、まず庁内では庁内の点検をしていくこと。

そして区民の方々に向けても地震の災害対策。備蓄ですとか、家具の転倒防止、そして家族でどこに逃げればいいのか、そういった話し合い、地域での皆さんの話し合い、そういった機会をぜひ設けていただきたいということで、先程申し上げました義援金のお願いの文書とともに、再点検をお願いしていきたいということで要請文を出させていただこうと思っております。

そして教育委員会といたしましては、区内の小中学校、こども園、幼稚園に向けて昨日通知を出しました。これはですね、子どもたちの災害対策について、それぞれ学校ごとにもう一度子どもたちへの働きかけをしてほしいということと、学校内の点検、安全確認、そして各学校は避難所となる場所が多いですので、避難所としての確認。また、そのときの、昼間ですね、日中災害が起きた場合の動きを学校としてもう一度確認をしていただくということ。

最後に今回の震災の映像などを見て、子どもたちが心理的に不安になったりということの可能性も十分考えられますので、子どもたちへのメンタルケア、心の対策もあわせてしていくことでのお願いを、小中学校、こども園、幼稚園に通知として出させていただきました。

東京都や国からの通知文があれば、それを受けて、また改めて通知はしていきたいと思いますが、北区教育委員会として独自に昨日通知を出させていただいた次第です。

また、区民の方々に向けては、改めて区としての防災対策についてまとめたものを、ホームページ上、トップページに上げていきたいと今考えておりますので、そういった意識啓発を行っていききたいと思っております。

例えば、耐震診断の相談窓口のご案内ですとか、防災の備蓄品の購入のあっせんですとか、さまざまな、また分譲マンションですとか、マンションのアドバイザー派遣など、いろいろな補助制度がございますので、そういった制度について一枚にまとめてホームページで公表、見やすい形にしていきたいというふうに思っております。

少し時間を要しますが、そのような形でこの能登半島地震を人ごとではなく、しっかりと支援とともに、私たち北区としてもみんなで考え直していくこと、これが必要なというふうに思っております。

能登半島地震の支援と対応については以上であります。

大きく二点目は、渋沢栄一新一万円札発行カウントダウンプロジェクトについてであります。何点かあります。

一つ目は今回ですね、職員提案の中で採用をいたしました。学校給食で渋沢翁が好んだ食べ物、献立を学校給食の中で実現してみようという職員提案がありました。これをですね、実現すべく、区内の小中学校に依頼をいたしまして、学校給食の中でその献立を実現してもらうという内容であります。

日にちを特定した形ではなく、2月中の給食の中で、各学校、メニューも、例えばオートミールですとか、深谷市出身ですので、深谷のネギとか、煮ぼうとうとか、そういった工夫したそれぞれの学校ごとのメニューを工夫をしていただきまして、子供たちに食を通して渋沢翁を伝えていただく。そんな取り組みを行っていきたい。普及啓発と食育をテーマに2月に行ってまいります。学校を一つ選ばせていただいて、私も実際に参加したいなというふうに思っております。

二点目が「国連を支える世界こども未来会議 in KITA-ku」であります。2月4日に開催予定でありま

す。区内の小学生 4 年生・5 年生・6 年生を対象に、40 名を募集いたしまして、テーマとしましては「住み続けられる未来の北区」をテーマにし、SDGs をみんなで考えていくという内容であります。

区内 40 人の子どもたちに SDGs をテーマとした意見交換をしていただきまして、グループに分かれてディスカッションを行い、その内容についてグループごとに発表し、そのグループの中で最優秀賞を決めさせていただきまして、北区の代表チームを 1 チーム、グループを選びます。

そして 3 月に行われます、東京都の大会に出場していただき、東京都の大会で選ばれますとニューヨークの国連での発表につながっていくということで、今回北区としては新しい取り組みであります。

SDGs の考えのもとである渋沢翁のこの考え方を、子供たちにもこういった取り組みを通して広く理解をしてもらいたいという思いで、今回、この取り組みを進めていく考えであります。ぜひ、皆さんにもご覧いただけるよう、その出し方も工夫をしまいたいというふうに思っております。

世界の子どもたちに向けてアイデアを発表できるよう、各小学校に応募のお願いを、私もしていきたいなと思っております。以上です。

そして三点目が、前回の記者会見でも少し申し上げましたが、区民の企画アイデア、この投票について改めて実施中でありますので、お願いをしたいなと思っております。

投票期間が 1 月 19 日金曜日までとなっています。ひらめきコースが今回 98 件ございました。そして事業提案コースが 11 件。それぞれのコースについて、ホームページでぜひご覧をいただきまして、このアイデアおもしろいな、これをみんなでやれたらいいなというものをですね、広く皆様に投票いただき、事業を決定していきたいと思っております。

ひらめきコースにつきましては、一人 3 件 3 票まで投票できます。そして事業提案コースは一人 1 票 1 件の投票をいただきたいと思っております。ぜひ多くの皆さまの投票をお待ちしています。

そして、最後に渋沢翁の取り組みとして、写真にも出ておりますが、区内を走る清掃車。こちらにですね、新一万円札をイメージしましたラッピング車を今走らせています。多くある清掃車の中で 1 台だけこのラッピングを施しております。区内でこの清掃車を見つけたらすごくいいことがあるということで、広げていきたいなと思っております。清掃車をはじめとして、さまざまところで渋沢翁の取り組みを広げていきたいなと思っております。以上であります。

改めまして、令和 6 年度、今年が始まりました。昨年 4 月の就任以来、とにかく区民のための区政を作るために、さまざまスピード感を持って対応してまいりました。令和 6 年度は、さらにその変革期から具体的により一歩でも前に進めていく、進める年になるよう、令和 6 年度の予算編成も含めて、皆さんのご意見をいただきながら着実に進めていきたいなというふうに思っております。

引き続き、区民の皆様、多くの皆様のご意見、ご理解をいただきまして、より北区が住み良い町になりますことを目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

【司会】

ありがとうございます。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。質問の際には、挙手の上、職員が持参するマイクを使ってご発言ください。ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【やまだ区長】

はい、どうぞ

【質問者 東京新聞】

東京新聞のサカキバラです。先程能登地震の対応のところ、23区で協議して、必要なところに届ける、連携して、ということなんですけど、一応単独で支援に動いてる区もあると思うんですけど、北区としては単独では動かないってということでしょうか？

【やまだ区長】

はい、そのように考えてます。また、北区友好都市を組ませていただいている山形県酒田市があります。酒田市の方には地震の直後にですね、担当の方から確認をさせていただいて、市の方には確認をとらせていただき、必要な要請があれば、それを受けて単独で行いたいと思っておりますが、今の時点で酒田市さんの方から個別の支援要請はありませんので、個別対応としては、その他23区の方での連携の中で対応していきたいというふうに思っています。

【質問者 東京新聞】

ありがとうございます。あと、北区として準備、用意があるものとして、給水車、職員、保健師というふうに挙げられたんですけど、あと、おむつ、食料、水。その辺が北区としては用意があるっていう。

【やまだ区長】

はいそうですね。はい。やはり給水車も派遣をしていくとなりますと、車だけ持っていくことはできませんので、職員がチームとなって何泊何日ってということで、何チームかっていうことで派遣できるようなそんな体制を考えています。

【質問者 東京新聞】

ありがとうございます。あと、すみません。北区独自のその何て言うんでしょう、能登地震で今回震度7が計測されて、半島という特性もあって孤立してしまったりとか、そういう地域が今出てるんですけど、北区として独自で、地域柄というか、それ級の災害が起きた時に懸念されることっていうのは何がありますか。

【やまだ区長】

そうですね。やはり、木造住宅密集地域が多い地域でもありますし、また高低差、高台と低地部との高低差が非常に多い地域でもありますので、そういったことが懸念として考えられます。

やはり区民の方々のご理解をいただきながら、耐震促進をしていく。また、耐火構造への働きかけをしていくということがまず大きな一つかなっていうふうに考えています。

あわせて、これは個々だけではなく、崖地対策ということは、国や東京都との協議の中でできる限り進めていきたいというふうに思っています。

あわせてやっぱり避難所。今も避難所で本当にやっとお風呂に入れたというような報道も見ておりますが、避難所での対応が滞りなく、また障害がある方、ない方も含めてですね、避難行動要支援者の対策も早急に進めていかなきゃいけないと思いますし、それぞれの対応を、少し速度を上げて、就任後

すぐに、災害対策については、かなりスピード感を持って対応してきたつもりではあるんですが、今回の能登半島地震を受けて、さらにできることがないかということをも今、全庁挙げて協議を進めているところでありますので、できることから手を付けていきたいというふうに思っております。

【質問者 東京新聞】

はいありがとうございます。もう 1 点だけ。区内で、区の建物の中で耐震基準を満たしていないものってというのはまだあるんですか。ちょっと細かいことですが。

【やまだ区長】

新耐震基準の建築基準法が改正される前の建物というのももちろんありますので、そういったところに対しての啓発っていうことはしっかりやっていきたいと思っておりますし、団体の皆さんともお力をいただきながら、耐震診断の相談窓口ですとか派遣、そういったものを、できる限り広く区民の方々にお知らせをし、使っていただきたいなというふうに思っています。これはもう戸建てもマンションも含めて、はい。

【質問者 東京新聞】

ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます。ほかにご質問のある方はいらっしゃいますか。

【質問者 都政新報】

すみません、都政新報社のドイと申します。

すみません、先ほどの質問に関連してしまうかもしれないんですが、能登半島地震を受けて、何か区の地域防災計画を見直すですとか、あとやまだ区長は、今年の 4 月の区長選で強靱化プロジェクトの策定など公約に掲げられていると思っておりますが、今回の地震を受けて何か見直し検討されてる事業などありましたら教えてください。

【やまだ区長】

はい、今お話がありました地域防災計画。これにつきましては、既に見直しの取り組みは進めておまして、令和 6 年度に内容を公表していくという形で今進めておりますので、その中身につきましては、公約の中でも謳わせていただいた内容も含めて盛り込んできたつもりでありますので、例えば帰宅困難者対策の強化ですとか、障害者、障害をお持ちの方々の避難所、避難対応など、障害種別にしっかりと対応していかなければいけないことと、考えられるものについては、計画の中に盛り込んでいく、いけているかなということと、なので、今回の能登半島地震を受けて、さらに加えていくということとしては、スピード感を上げていくというところかなというふうに思います。

また、強靱化対策については、震災、風水害、水害ですね。それ以外に通信、それから富士山の噴火。こういったことが、今までの地域防災計画、区の危機管理の中では、あんまり、通信を確保していくこと、それから噴火が起きた場合の降塵の灰ですね、その対応についてのライフラインを確保していく、どこにその灰を集めていくとか、そういった協議が余り十分ではなかったかなという思いもあったので、そういったことも含めた強靱化対策。震災、風水害だけにとどまらず、そういったリスクも入れたものとし

て令和 6 年度に策定をしていくという計画で今考えています。

【質問者 都政新報】

すみません、あともう 1 点。能登半島地震を受けて、これも区長会などを通してになると思うんですが、職員の派遣などは今の段階では検討中というか。

【やまだ区長】

そうですね。はい。もちろん派遣要請を受けてしっかりと対応していきたいというふうに思っております。先程申し上げましたが、給水車についても、やはり 1 台について 4 人ぐらいの職員が必要になると思いますので、そして一度行って何カ月もというのは難しいと思いますので、4 泊 5 日とか、そういった形で何チームかで交代交代で対応していくというような職員派遣の考え方。それから 23 区として、災害時の対応の中で保健師さんということも出ておりますので、保健師の対応も考えています。

それ以外に要請があるものについては、最大限できるような形で考えていきたいと思っています。

【司会】

他にご質問のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。それでは本日の記者会見は終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【やまだ区長】

ありがとうございました。